専門学校　ベルランド看護助産大学校　学校誌

# Kanade 奏

VOL.04
2022

特集
## オンライン＆シミュレーション教育

# 新しい門出

社会医療法人 生長会
社会福祉法人 悠人会
理事長 亀山 雅男

昨年は、一昨年同様に新型コロナウイルスの対応で明け暮れた1年でした。学生の実習も十分にできない中、関係者の方々には色々とご配慮をいただき誠にありがとうございました。一方、私たち医療福祉介護従事者は、如何に地域住民の命と健康を守るかというBCPの重要性を改めて考えさせられ、継続性（sustainability）ということを念頭に日々の業務を遂行している次第です。

さて、社会医療法人生長会は1955年に産声をあげ、地域に根差したトータルヘルスケア体制を構築してきました。その過程において、提供する側の質が重要であるとの判断から1977年に看護学校を設立し、助産学科の開設等を経て、2016年8月に現在の新校舎が完成しました。2018年4月からはベルランド看護助産大学校に生まれ変わり、高度専門士を養成する4年課程の看護教育とすることで実践力の高い学生を育成しようと考えています。今春、4年制大学校となってから初めての卒業生を輩出します。彼らは、自立・自律の精神をもって患者さんやご家族に寄り添った看護を提供し、安全・安心に満ちた質の高い医療介護を享受していただける環境を可能にするものだと確信しております。

コロナ禍は未だ収束していませんが、今後とも生長会・悠人会の各施設は「愛の医療と福祉の実現」をモットーに、地域の医療・介護を支えつつ社会貢献して参りたいと考えています。引き続き、関係者の方々の御支援を頂きますよう宜しくお願い致します。

BCP ＝事業継続計画（Business Continuity Plan）

# 4年後の「初心」

専門学校 ベルランド看護助産大学校
学校長 大島 利夫

**初心忘るべからず**

室町時代に能楽を芸術として高めた世阿弥が著した「花鏡（かきょう）」に記載される言葉です。この書物は世阿弥の父で優れた能楽者であった観阿弥の教えをまとめた、日本史の教科書にも載っている「風姿花伝（ふうしかでん）」の20年後 、世阿弥が当代随一の能楽者としての地位を確立した40歳代から老後に至る実践から創造された、世阿弥60歳ころの芸術論の極致です。

「初心忘るべからず」は、現代では一般的に、物事を最初に始めたときの気持ちに戻ることを意味します。教師や上司が、学生や部下を見て、目的を見失っているとか、努力が不足していると感じられた時に、それを戒めるために上から目線で引用されることが多いと思います。

ところが「花鏡」の原典に書かれている「初心忘るべからず」の意味はずいぶん異なります。

**是非の初心忘るべからず　時々の初心忘るべからず**
**老後の初心忘るべからず**

現代語訳は
「未熟だったときの芸も忘れることなく、その年齢にふさわしい芸に挑むということは、その段階においては初心者であり、やはり未熟さ、つたなさがある。そのひとつひとつを忘れてはならない」

つまり、「老年期になって初めて行う芸というものがあり、初心がある。年をとったからもういいとか、完成したとかいうことはない」とあり、そのときどきで、自分の心の状況を意識して、変えていくという意味合いです。

高い実践能力を備え、自立した看護専門職の養成を目標に、本校の高度専門看護学科が「離陸」して4年が経ちました。このまま水平飛行に移行するのではなく、さらに高く、果てしなく遠くまで飛行する意志が、高度専門看護学科設立4年後の「初心」です。

# 特集1 オンライン＆シミュレーション教育

新型コロナウイルスが拡大し始め2年が経過しました。学校でのオンラインを使用した教育も2年目を迎え、初年度に比べオンラインを使用した授業展開も幅が広がりました。ここで、助産学科、高度専門学科の各領域での取り組みをご紹介します。

## 助産学科

### Let's オンライン発表「概論プロジェクト」

入学して間もなくから、助産学概論において母子保健に関する課題について自主的にテーマを選択し、選択の動機や学びのビジョンゴールの設定、伝えたいことの概要を整理してまとめました。

提出されたテーマのキーワードは「**不妊治療・性教育・ＬＧＢＴＱ・産後ケア・産後うつ・災害時の子育て・男性の育児休業・特定妊婦・無痛分娩**」などでした。学びの共有は、各自が工夫してパワーポイントを作成し、学習成果をＷｅｂ上で自らプレゼンして発表しました。

凝縮ポートフォリオを作成し、
教室前廊下に掲示して共有しました☆

### Let's シミュレーション演習

母子同室開始時に必要な保健指導

妊婦健診

学内登校ができる時期には、実習で必要な様々な実技演習を実施しました。演習では、対象の状況を具体的に設定し、情報を分析・アセスメントしたうえで、助産ケア計画を立案し、学生同士でシミュレーションを行いました。

行ったケアが、対象に合っていたか、必要な内容を分かりやすく伝えられていたか、聞きやすい関係性を配慮していたか等、デブリーフィングをしていきました。

### Let's オンライン実習 保健センター実習

保健センター実習がオミクロン株の蔓延のため中止となり、急遽オンライン実習になりました。

地域での乳幼児健診や母子訪問について自己学習し、Webでグループワーク→学びの共有プレゼンを行い、さらに２事例の助産診断過程とケア計画を作成し、教員出演の母子訪問動画から、課題を考察しました。

グループワークの結果を
資料共有し、Web発表中！

母子訪問の実際を教員がロールプレイ。
動画で配信しました。

### オンラインで学会形式発表！

Web上で学会形式で発表しました。
少し緊張の面持ちです。司会さん・座長さんお疲れ様！

5月～1月までの長期わたり、３グループに分かれて調査研究に取り組みました。今年度の研究テーマは以下の通り。

＊「睡眠の質とセルフコンパッションとの関係性について」
＊「出産経験のない女性における妊孕性の知識に基づいたライフプラン形成と行動変容に影響を及ぼす性格の関連性」
＊「子宮がん検診に対する学生の受診行動とグリッドの関連性について」

オンライン学会として、一通りの役割を学生で担いました。総合司会・座長・タイムキーパー・書記と自宅からスーツ姿で臨み、緊張感ある発表が行われました☆質疑応答も積極的に行われ、有意義なものになりました。

# 基礎看護学領域

## オンライン授業 ～フィジカルアセスメント～

基礎看護学では、看護師としての土台を築けるよう基礎的な知識、技術、態度を修得することを目的としています。学生が主体的に学習に取り組み、自ら考える力を大切にしながら、看護実践力の育成を目指しており、講義、演習では、アクティブラーニングを取り入れ、シミュレーターを活用するなどの工夫をしながら、授業を行っています。

フィジカルアセスメントでは、シミュレーションモデル人形を用い、呼吸音の正常と異常を聞き、呼吸音の聴診方法を見てもらうことで、対象への聴診の実際を理解しやすいようにオンライン授業を行いました。

その後対面の授業で、実際に学生同士やモデル人形を活用しながら、フィジカルイグザミネーションを実践しました。

学生からは「どんな音なのか、どこで聴診するのかが改めてわかった」「呼吸や心臓に異常があると患者さんは苦しいと思うので、いち早く気づけるように、この音の時はどこに何がおきているのかということを理解しておかないといけないと思った」との意見が聞かれ、学びを深めることができていました。

## 日常生活援助の実際

演習では、事例を用いて対象に必要な日常生活援助を計画立案し、看護師役、患者役を経験しながら実践しています。それぞれの立場から、ルーブリック評価を用いて説明と同意、安全・安楽、プライバシー等の観点からリフレクションを行います。

教員は学生の気づきから「なぜそうするのか」を学生に問いかけ、学生が最適な援助を実施することの意味づけができるように支援しています。

今後も学生が科学的根拠に基づき、対象を中心とした看護を考え、提供できるように授業方略を工夫していきます。

# 成人看護学領域

## ベルランドの 成人看護学って？

高度専門看護学科は、成人看護学と老年看護学の領域を横断してカリキュラムを構築しています。成人期にある対象とその看護を学ぶ主な科目は、“ライフサイクル論”と”領域横断・健康状態別看護（急性クリティカルケア・セルフマネジメント支援・エンドオブライフケア）”です。

## 成人看護学の取り組み

昨年と同様にCovid-19感染症による影響をうけて、厳重な感染対策の中で、オンライン授業と対面授業を合わせたハイブリッド授業を展開しました。

各授業は試行錯誤の連続で、それぞれの担当教員が、学生が主体的に学び取ることを願って、学生の思考を促進する発問を考え、ICT機器を活用した協働学習、シミュレーション教育で実際の対象や看護の場面をイメージするような工夫をしました。特に、演習＝対面・実習室というイメージが強いと思いますが、オンラインでも演習に取り組める内容を検討し、これまでの教授方略を大きく変換、新たな方略を生み出すことができました。

このような状況の変化は、私たちの教育における価値観を大きく変化させるきっかけとなりました。どんな状況においても、創意工夫して最善を生み出すことは看護専門職にとって重要な力となります。

私たちも、専門職を育てる教員として、創意工夫・試行錯誤しながら、新しい取り組みを続けていきたいと思います。

## ハイブリッド授業の流れ

①オンライン配信
教員が演じる患者さんの様子をオンラインで配信し、学生は自宅から演習に参加します。

②対面での演習
グループで検討を重ねた看護計画をもとに、看護実践を行います。対象の反応をもとに、看護計画の修正を行い、個別性に応じた看護を考えます。

③演習後のリフレクション
教員のファシリテーションのもと、演習で気付いたことや考えたことを語り合います。各グループが学内の様々な場所に分かれ、フェイスシールド着用で行います。

# 老年看護学領域

## 高齢者看護の実践を学ぶ ～実習へつなげよう～

２年生後期の老年看護学では、加齢や障害によって生活機能がどのように変化していくかを考えながら、高齢者に応じた生活援助の方法を「高齢者看護の実践」という授業で学びます。

事例を用いて具体的に援助方法を考え、演習で根拠づけて理解を深めます。高齢者の関わりに必要な実習の架け橋となる科目です。

実際に実習で学生に指導して下さる方が講師です。臨床での経験を講義に組み込んで、質の高いシミュレーション教育を活用し学べるのが特徴です。

写真①

シミュレーションでは、臨床判断で重要とされる学生の「気づき」が身につくよう講師・教員がファシリテーターとなり演習を進めていきます。

例えば「食べる」のシミュレーション場面では、学生は「事例シナリオ」に応じた援助実施終了後に毎回１０分～１５分程度の状況説明を行い、意識した事や学びを省察。（写真①）

最後に講師から対象の「もてる力」を活用したベッド上とリクライニング車椅子での支援方法のレクチャーを受け、ポジショニングの大切さから実践に繋がる思考過程を更に深めていきます。（写真②と③）

教える教育から学生が学びとる教育方法へと、これからも積極的に取り組み創造していきたいと思います。

写真②

写真③

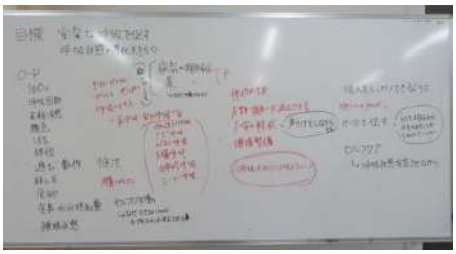
# 小児看護学領域

## オンラインで育児支援をしよう！

コロナ禍における小児看護学実習では、オンラインで自宅にいる学生さんと繋がりました。

小児科外来での育児支援の場を設定し、教員がモデル人形を抱っこしながら母親を演じます。登校している看護師役の学生さんが頑張って母親への支援を考え対応してくれました。

「不安を抱える母親が安心して子育てするには？」「看護師が正しい知識を提供することが大切！」など、活発に意見交換ができました。


ホワイトボードにみんなの意見を集めて考えます

## こどもの看護を実践しよう！

学内実習日を利用して、呼吸困難のあるこどもへの看護を実践します。モデル人形を用いて観察項目の確認や看護について意見交換します。

こどもの成長・発達段階を理解し、こどもに安心を与えられるような声かけの工夫や安全への配慮など、体験しながら考えることができました。

# 母性看護学領域

## 母性看護学をイメージしてみよう！

現代の学生は、少子化、核家族の中で育ち、妊産褥婦・新生児に身近に接することが少ないためイメージができず、理解することが難しいという特徴があります。

そこで母性看護学では、少しでもイメージできるよう模型を使用し、産褥期の日々の変化を捉え1枚の用紙にまとめるなど講義から実習までを繋げて学ぶことができるよう工夫しています。

学生が事前学習として、出産後の日々の変化をまとめたシートです

## シミュレーション実習

コロナ禍においては臨地実習での学びが困難な状況もあったため、模擬事例を用いて看護実践を行いました。

まずは、1つ1つの情報に時間をかけアセスメントし、改めて既習の学習を自ら深めることができていました。そして、アセスメントを基に対象や家族の立場に立ち、思いを考え最適な保健指導をそれぞれが立案しました。

その指導案を基に、実際に看護学生役、褥婦役、家族役に分かれロールプレイングを実施し、そのほかの学生は気づいたことをホワイトボードに記入していきました。この場面でも講義で学んだ資料を用いながら学生自身が実施したことを振り返り、また気づきを共有することで少しずつイメージを膨らませ学びを深めることができていました。

直接対象者や家族と関わることができなかったため、コミュニケーションの面で課題は残りますが、学内で実践した学びを基に今後に結び付けていってほしいと思います。

骨盤模型を用いて、再度みんなで確認中。

模擬事例

退院前の保健指導のシミュレーション。正しく伝わったかな？

## 学内＆オンライン実習

2021年度、4月及び8月は学内・オンライン実習となりました。臨地での実習ではない分、視聴覚教材を用いて、実習を進めました。

“病的体験” をイメージするためには『ビューティフルマインド』、“障害のある人の地域生活” をイメージするためには『人生、ここにあり』『自閉症の君が教えてくれたこと』を視聴しました。

視聴後は学生間でディスカッションし、教員が今までの実習での体験をコメントし、臨地実習を行った他のグループとの差が出ないように配慮しました。

オンラインで実習中

学内でディスカッション

# 精神看護学領域

# 統合領域 在宅看護論

コロナ禍の5月、地域・在宅看護論実習が、「臨地」から「オンラインと学内実習」へ変更となりました。

実習目標が到達できるように、また、できる限り体験を通しての学びに近づけたいという思いから、何ができるか？！を考え、オンラインと対面の訪問看護疑似体験を計画し、実施しました。

訪問看護の対象となる事例の基本情報や訪問看護記録を準備し、訪問する際の脚本を作成しました。

学生は、対象の情報を収集し、教員が演じる「対象者への訪問看護」にオンラインで同行します。対象者と看護師のコミュニケーションやケアの場面を見学し、オンライン上で対象者とのコミュニケーションも行いました。

## 訪問看護 疑似体験！

在宅実習室は、リビングのテーブルには雑誌や卓上調味料、キッチンにはお鍋等を置き、生活感を演出しました。

その時に得た情報を整理し、次回の訪問時にはどのような状況・状態が予測されるのかを考え、自分たちが実際に訪問する計画を立てました。そして、学内演習で、自分たちが考えた訪問看護計画を実践しました。

その後の振り返りでは、とりとめのない会話の中から情報をつかむことの難しさや、様々な状況を予測し準備をして訪問することの重要性、対象の「自宅」という場所でケアするときに必要な配慮、環境や使用物品の違いなどからくるケアの難しさなど、様々な気づきがありました。

# 統合領域 看護の実践と統合

## ＯＳＣＥで臨床判断を学ぶ

対象個々の状況に応じた判断と、看護倫理に基づいたスキルの評価としてOSCEに取り組みました。

課題は『状況を判断し優先順位を考えたフィジカルアセスメントの実践』でしたが、実施後「もっと知識を身につけ気づく視点が必要である」と振り返る学生が多く、改めて自己の実践力の未熟さに気づけた授業でした。

OSCE（オスキー）とは…
客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination）の頭文字をとったもの。
看護実践能力を測る試験。

## 「災害看護学」講義を終えて

ベルランド総合病院　看護部科長
救急看護認定看護師
友田新二

わがまち『ホープタウン』で災害が起きたらどうするか？地図に書き込みながらシミュレーション。

この度、災害看護学の講義を担当させて頂きました。 日本各地で起こる災害に対し、今後看護師として、あらゆる場面で、ゆきとどく看護を実践することが求められます。 講義で学んだ知識を基に、実際に自分達で考え、机上シミュレーションを通じて、お互いの価値観を感じながら演習することで、沢山のディスカッションとなり、参加型授業に繋げることができました。

これからも授業を通じて、私たち看護師に求められる役割の重みを感じつつ、学生の頃から連携・協働して、支え合うチームの一員であることを認識し、より良い学びに繋げて行きたいと思います。

## １回生の新しい門出

専門学校 ベルランド看護助産大学校
副学校長　西本 厚栄

私が30才で教員となった頃、成績管理は、担任が電卓で集計に３日かかると言う過酷な状況でした。やがてカシオの３行ワープロに、パソコンを導入したのは10年後、一太郎からワード、ロータス123、エクセル・アクセス、ワンドライブへと。今や自動でデータ集計やクラウド管理への大きな変革を遂げました。令和3年度の入学生からデジタルテキストで、スマートフォンを用いての各自出欠、成績、講義資料管理ができるようになりました。

このコロナ禍で、学校はオンライン教育を実施せざるを得ない環境となり、教職員と学生が一丸となってICT教育に向けて大きな変革への一歩を歩みだす経験と成果を得ることができました。まさしく火中で拾った栗の甘みを享受した心境です。

本校の4年制の教育の準備は7年前から開始、社会医療法人では初めてで、学校新築と同時進行でした。他校より先がけ、デジタル利活用能力の向上、特に情報収集能力、文献検索活用力、プレゼンテーション力、自ら取り組む力を身につけるカリキュラムとし、巣立つ一回生は格段に身につけられたと自負できます。

看護基礎教育3年制の専門教育においては、教育予算等の関係からWifiがない、オンライン教育ができない校が大半ですが、本大学校は法人の支援により先駆的にICT教育に取り組み実績を上げたのは事実です。看護基礎教育への理解と支援に感謝です。

これから看護職として社会に羽ばたいていく皆さまは一層、患者さんやご家族に寄り添ったデジタル化できない質の高い価値のある看護と、IT化できるものを見極め、改革と利活用できる能力を開花して下さい。質の高い保健医療福祉を創造してくれることを確信しております。

最後に私も、看護基礎教育から卒業する事ができました。看護基礎教育には4年の教育が絶対必要、能力の高い看護師育成をめざして教育の変革を願い、本校で関わらせていただきましたことに深く感謝申し上げます。本校の益々の発展を御祈り致します。

高度専門看護学科１回生が卒業します

# ４年制教育をふりかえって　今、思うこと

## 高度専門看護学科を１回生が切り拓く

専門学校 ベルランド看護助産大学校
高度専門看護学科
学科長　濱田 眞由美

2018年4月、全国でも数少ない4年制の高度専門看護学科の始まり。１回生40名がゆとりある時間でじっくりと学びたい、より高度な看護実践力を身につけたい、卒業後は高度専門士の称号が与えられ大学院にも進学できるカリキュラム、本校を選んだ動機は様々で、思えば個性の強い学生が集まり、期待と不安が入り混じった状況での学習がスタートしました。

同時に入学した看護学科の学生達がユニフォームを着て臨地実習に行くのを横目で見ながら、自分たちは学内での学習と演習の繰り返し、半年遅れの戴帽式を終えようやく本格的な実習に。いつも一歩遅れるような感覚を持ちながら、「初めてのことだから」という学校の対応に困惑というよりは「自分たちはお試し学年だ」とやる気が萎え、怒りを表すこともありましたね。しかしその時々で誰かがリーダーシップを発揮し全員で取り組み、道を切り拓いてきた、そんな１回生の姿に（しばしば）感動していました。

１回生の歩む道は、何に対しても初めてのことばかりです。誰かが前に立って道を指示してくれるわけではありません。看護も同じではないかと思います。今、目の前におられる対象に、最も良い看護を実践する時、根拠となる知と経験を総動員させ、その時のかかわりは、すべて「初めて」ということになるのではないでしょうか。専門職としての科学と対象の状況を理解し想像から看護を創造していく、まさに切り拓く力が必要だと思っています。

初めてのことに取り組む時、不安はつきものです。それを払拭するための学習・実践・リフレクションを重ね、卒業後も周囲の諸先輩方に相談し、関係を築きながら、広い視野をもって看護を探究し、ゆきとどく看護を実践する力を身につけていってほしいと願っています。

ベルランド看護助産大学校の高度専門士としての卒業生への期待とプレッシャーは、今後もついてくるでしょう。しかし皆さんの学修してきた道は、しっかりと後輩に受け継がれています。

これから就職・進学とそれぞれのめざす方向に向かって歩んでいきますが、恐れず積極的に向き合い自らを信じて力を発揮し飛躍されることを願います。そして卒業生達が迷ったときに立ち返ることのできる「看護の原点」をもてる教育を継続し、いつでも学生・卒業生を支援できる学校でありたいと思っています。

学習の成果を冊子にして保存

# ４年間のあゆみ

## １年次

ライフサイクル論／演習

看護への招待プロジェクト

対象者の生活援助プロジェクト

ヘルスプロモーション論／演習

サービスラーニング

入学式

一泊研修

## ２年次

形態機能プロジェクト

看護の展開プロジェクト

ヘルスプロモーション実習

BLS演習

芸術発表会

戴帽式

## ３年次

領域横断実習

急性・クリティカルケア

エンド・オブ・ライフケア

セルフマネジメント支援

研究発表会

## ４年次

領域横断実習

小児看護学

母性看護学

精神看護学

地域・在宅看護論

統合

テーマ別実習

ケーススタディ発表会

卒業式

入学

卒業

キャリア発達

体育祭・学校祭・後輩支援・サークル活動

# 講師紹介

学校カウンセラー
小松則子先生

学校１階にあるカウンセリングルームには、毎週水曜日の放課後、カウンセラーの先生が在室しており、カウンセリングを受けることができます。

カウンセリングルームのドアが開いていればお話できますので、お気軽にどうぞ。

予約は事務やカード等で受付中。“あき”があれば、当日でも相談可能です。

## ◆カウンセリングで気をつけていることなどはありますか？

まずは、気軽に相談しに来てもらえるように、多様な予約方法を用意するなどの工夫をしています。

相談者の年代や性格、家族構成などの背景も考慮して、その人その人にあったカウンセリングを心がけています。

病院でもカウンセリングを担当していますので、病院の現場を知りつつ相談にのることができます。カウンセリングを受けた経験が、卒業後にもつながるようなものとなるようにも心がけています。

## ◆コロナ禍におけるカウンセリングで何か変化はありましたか?

コロナ禍は、人間関係つくりに大きな影響を与えているように感じています。

リモートは、講義中の状況が見えづらくなり、今の自分の現状が良いのか悪いのかが確認できず、不安であるという悩みの相談が増えました。

特に、新入生は入学後すぐにオンラインが続き、人間関係を構築しづらい状況です。

また、リモートでの授業や実習で登校する習慣がなくなり、対面の場や、通学しての実習、就職後の通勤しての仕事がしんどいといった声も聞かれます。

## ◆学生にひとことお願いします

一番は、学生生活を楽しんでもらいたいと思っています。

そして、頼れる人を作ってほしいです。頼ることは、弱くも恥ずかしくもありません。頼ることも、頼られることもできる、対等な人間関係を作ることができればベストです。

困った時は、自分が話しやすい人に話しをしてみましょう。“話す”ことは、“放す・離す”ことでもあります。自分から解放し距離をとることで、悩みを客観視でき、解決にもつながります。

学生時代に悩みを解決できた経験は、現場に出たときの強みになりますよ。

# 教員もＩＣＴ教育推進頑張っています！

情報モラルカードを使って演習しました

2021年度の教職員研修は、鳴門教育大学の大学院遠隔教育プログラム推進室長／教授の藤村裕一先生をお迎えし、ICTにおける情報リテラシーをテーマに２回シリーズで開催しました。

研修ではICTのよさを活かす教育が大切であることや、情報モラルについて学びました。２回目はオンライン研修となりましたが、遠隔教材体験を行い、充実した研修でした。

また来年度も、幅広いICTの活用を目指して前進したいと思います！

## 2021年度　卒業式が執り行われました

2022年3月2日、高度専門看護学科1回生と助産学科30回生が巣立って行きました。

初夏の頃「卒業時の服装をスーツに加えて袴も選択肢に入れてほしい」と卒業生（高度専門看護学科1回生）からの要望がありました。要望書には、「なぜ袴を着用したいのか」の理由を袴の歴史から紐解き、学問の場でふさわしいきちんとした身なりであり、卒業式というおごそかな式典での衣装として相応しいことが述べられていました。

そして2021年度は、学校の歴史の中で初めて、華やかで凛とした袴姿の卒業生を送ることとなりました。

コロナ禍での開催で、お世話になった多くの方々にご列席して頂くことができませんでしたが、答辞では学生生活での思い出と共に、臨地で受け持たせて頂いたパートナーの方、指導者、講師、保護者への感謝が読み上げられ、涙する卒業生とご家族の姿もありました。

式の最後は、プロが奏でる卒業式歌「栄光の架橋」のヴァイオリンとピアノの音色によって、会場が感動に包まれました。

4月から卒業生は、就職や進学とそれぞれの新たな道を踏み出します。今後も看護・助産の専門職者として地域で活躍できることを願っております。

## 編　集　後　記

4号では、2020年から導入したICT教育の取り組みを紹介させて頂きました。2021年度は遠隔授業も定着しつつあり、助産学科30回生・高度専門看護学科4回生からは電子テキストを用いた学習もスタートしています。本校の教育にふれる機会になれば幸いです。また、高度専門看護学科1回生が卒業を迎えました。「奏」には、「学生たちが、それぞれの個性を発揮して鳴らすベルの音は無限の音階。本校で学んだ学生が、病院や地域で鐘(ベル)を鳴らし、看護を奏でることを願って。」の思いが込められています。本校で修得した技術を活かし、助産師・看護師として自分らしく色々なことに挑戦して下さい。　（学校誌委員）

ベルランド看護助産大学校 学校誌　奏
Kanade VOL.04

2022年3月発行

編集：ベルランド看護助産大学校学校誌編集委員会
発行：専門学校　ベルランド看護助産大学校
〒599-8247　堺市中区東山500-3
TEL：072-234-2004

※学年の表記は、すべて2021年度のものです